

公益社団法人日本ライフル射撃協会

2024年度第1回理事会第2次 議事録

日時:2024年5月25日(土) 13:30~17:00

場所: ジャパンスポーツオリンピックスクエア会議室9及びオンライン会議 (Zoom)

出席者 (* テレビ会議による出席)

松丸喜一郎会長 田村恒彦副会長 *横山幸子副会長 平眞専務理事 大野明敏常務理事
三木容子常務理事 平井宏治常務理事 佐橋朋木常務理事 *近藤正晃ジェームス常務理事
成山悟史常務理事 *田中僚一郎理事 田口亜希理事 松島愛理事 酒寄貴瀬理事
穂苅美奈子理事 *栗生由紀理事 藤枝操理事 *横沢聡理事 尾崎和郎理事 高橋信吾理事
*青木満博理事 仲本渚理事 五十嵐治人理事 *田中辰美理事 *堀水宏次郎理事

岸高清監事 永谷喜一郎監事

理事:総数27名中、以上出席 25名

監事:総数2名中、以上出席 2名

議事録署名人:松丸会長、田村副会長、横山副会長、岸高監事、永谷監事

議長:代表理事 松丸喜一郎

1 【追加】日本ライフル射撃協会役員コンプライアンス研修

日本ライフル射撃協会顧問弁護士である萩原克虎弁護士より、資料に基づいて表題の研修が行われた。

平専務理事が14時02分に理事25名出席で理事会が成立するとの宣言をした。事務局が、オンライン会議システムにより、出席者の音声が即時に双方向に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認して議案の審議に入った。

2 会長あいさつ

萩原克虎先生の話は役員である我々が果たすべき役割についての内容であった。政治改革が国会で議論されているがおよそ一般国民に納得できる内容ではない。国民の代表である政治家は国民に範を示せるように自らを律するべきである。翻って我々役員も会員に範をしめす活動を行う必要がある。法律や規程も全てを網羅しているわけではなく、またガバナンスコードのように実態から乖離している部分もある。範を示す基準は「公序良俗」すなわち一般常識、一般的な道徳観念で判断すべきである。本日は2023年度の活動報告がある。一般会員の視点から監督、議論していただきたい。

<審議事項>

3 会長提案 提案事項なし

4 総務委員会

4.1 定時社員総会開催案について

平専務理事が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

4.2 【差替】総会審議事項:正会員承認の件

平専務理事が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

4.3 【差替】総会審議事項:2023年度事業報告承認の件

平専務理事が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、訂正を反映した理事会によって承認された。

訂正

資料記載の記入担当者の名前は消す。

4.4 2023年度の特定目的資産の積立、繰入及び取り崩しについて

藤井彌事務局長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

4.5 【差替】総会審議事項:2023年度収支決算書承認の件

平専務理事が資料をもって説明した。監査報告が岸高監事から資料をもとに報告があった。

議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

補足説明

- JOC強化補助金等収入は、当初予算739万円に対して1771万円増の2510万円となった。これには、従来のJOC強化交付金の追加交付に加え、JOCスポンサーのENEOSによる体験会・映像制作への協賛金1,200万円が期中に計上されている。
- スポーツ振興くじ助成金が906万円減り、スポーツ振興基金助成金が219万円減り、基盤強化支援金が418万円減った。これらは事業規模の縮小によるものである。
- 一般普及費の増加は、ENEOS協賛金が得られ、体験会と映像制作費の約700万円が計上されたためである。
- マーケティング調査費は、予算の350万円を自己資金として予定していたが、Eスポーツ関係の300万円を組織基盤強化支援に振り替え、全額を補助金で賄ったため、予算に対して減額となった。
- 収益の上方修正要因:
 - 強化事業の追加補助金: +650万円
 - JSC関係助成金事業の事業規模縮小に伴う自己負担金減少: +500万円
 - エネオス協賛事業による: +450万円
 - マーケティング事業の自己負担金からJSC助成金への振替: +300万円
 - 松丸会長杯の寄付金: +75万円
 - 棚卸関係の増: +55万円
- 基盤となる部分が改善して赤字が解消されただけでなく、上方修正要因が一時的に重なって解消されているため継続して基盤となる財政改善を行う。

4.6 【差替】総会審議事項:日本eshooting協会の加盟団体承認の件

平専務理事が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

補足説明

2024年4月26日に日本eshooting協会は、法人登録を完了し一般社団法人としてスタートした。

質疑応答

スポンサー関係の集まり具合はどうか。(佐橋常務理事)

→1社が前向きに検討されている。(松丸会長)

日本eshooting協会会員と本会の他の加盟団体会員が重複する場合はどうなるのか。(田口理事)

→今後検討していく。日本ライフル射撃協会の通常会費を徴収して頂く考えである。まずはハードルを低くして、若い人などに日本eshooting協会会員になってもらいたい。現在の7000人の会員に日本eshooting協会会員が加われば、会員総数が大きくなり、スポンサーへのアプローチもしやすくなる。ハードルを低くして、まず入ってもらい、徐々にリアルな銃に興味をもっていただきたい。シューティングファミリーという大きな傘のもと、実銃、ビーム銃、ゲームなどマーケティングに活用していく。(平専務理事)

理事として、基本的に何が起きているのか理解できていない。ソフトウェアの内容などについて、情報を得るために、説明の機会を設けてもらいたい。(田村副会長)

→6月総会で加盟団体として承認されれば、7月の理事会において日本eshooting協会から、現在進行中の内容について説明していただく。(松丸会長)

ビーム銃との関係はどうなるのか。ビーム射撃をする人口は減っている。ビーム銃に発展は見られない。機材も発展していない。eSportsからビーム銃へのハードルが高いが、ビーム銃の次世代構想はあるのか。NECが撤退したのは痛かったが、どこかで巻き込まないといけない。(永谷監事)

→ビーム銃は光線に置き換えられた競技射撃銃である。ビーム銃人口は増えていない理由は、競技射撃の領域の中に存在しているからだと考えている。eshootingの会員はまったく別の人たちになる。段階を踏んでリアルなスポーツにつなげていく。ビーム銃の後継機は後継機選定プロジェクトで検討している。(松丸会長)

→IOCは若者への取り組みを進めている。Eスポーツにおいて、IOCは身体活動をとまなうバーチャルスポーツに力を入れて行くことを明らかにしている。バーチャルスポーツに目を向けなければ、ゲームスポーツだけでは乗り遅れてしまう。その視点も視野に入れてやっていく必要がある。(平専務理事)

4.7 【差替】総会審議事項:会員規程改定承認の件

平専務理事が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

4.8 【差替】総会審議事項:日本eshooting協会の加盟団体正会員承認の件

平専務理事が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

4.9 総会審議事項:「加盟団体規程」内の「国体」の記述を「国スポ」に変更することの承認の件

藤井彌事務局長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

4.10 【差替】2024年度会長表彰案について

藤井彌事務局長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

4.11 将来構想の年度進捗について

松丸会長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、訂正を反映した内容で理事会によって承認された。

訂正

項目6 松松杯→松丸杯

4.12 【差替】ISSF開発基金への応募案について

藤井彌事務局長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

4.13 各種規程に記載されている「国民体育大会」の表記を「国民スポーツ大会」に統一変更する件について

藤井彌事務局長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

4.14 メダルの販売価格の改定について

藤井彌事務局長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

5.1 日本パラ射撃連盟空気拳銃優遇措置の延長について

大野推薦委員長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

補足説明

東京五輪で期限が切れたので、再度ご承認いただきたい。期限を設けず、承認したい。

5.2 推薦規程一部改定について

大野推薦委員長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

補足説明

加盟団体によっては場所を借りる必要があるため、今回の改定は、各加盟団体が独自に受講料を決定できるようにするために行われる。

6 国体委員会

6.1 国体委員会の名称変更について

平井国体委員長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

6.2 佐賀国スポ中央派遣役員案

平井国体委員長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

6.3 滋賀リハーサルとしての全日本社会人_全国 CP 大会中央派遣役員案

平井国体委員長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、修正を反映して理事会によって承認された。

修正

「18 10m 主任ジュリー」から藤枝氏の名前を除く。代わりの役員の決定は国体委員長へ一任する。

補足説明

ビーム、10m、50m は、能勢において行う。CP は、滋賀県の大津市で開催される。

質疑応答

県外開催になっているが、その代わりに県内に何らかのスポーツ活性に寄与するものをしないのか。(田村副会長)

→県外開催となる能勢射撃場については、常設でビームの射撃場を設置することになる。(平井国体委員長)

→滋賀県だが、これは近畿というくくりで考えていないのか。(田村副会長)

→滋賀県からの補助は何もなかった。大阪府のライフル射撃協会ではビームの常設を望んでいたもので、この形となった。(平井国体委員長)

→滋賀県でビーム射場の常設ならばわかるが、今後国民スポーツ大会が厳しくなる中、理由づけを強固にしていく必要がある。(田村副会長)

→県外開催に対する交渉は知事にする必要がある。

日本スポーツマスターズの参加は検討しているのか。(松丸会長)

→日本スポーツマスターズ大会を1度やったが、開催県のライフル射撃協会の大きな負担となった経緯がある。マスターズ連合が主導してやってもらう必要がある。(平井国体委員長)

→ライフル射撃は生涯スポーツであると標榜している。日本マスターズ大会への参加はマスターズ連合が担当するものの、協会事業として考える必要がある。日本スポーツマスターズ大会の何が負担だったのか

開催県に具体的に確認して報告して欲しい。AP の500人枠を拡大していくためにも生涯スポーツ化を推進しなければならない。(松丸会長)

→ビーム射撃の人口が増えていないとの発言があった。成人のビーム射撃人口が減少したことも一因である。成人のビーム人口を増やすためにも BRBP 成年種目を国スポに復活させる必要があるが、この検討はどのようになっているか。(松丸会長)

→委員会で検討している。(平井国体委員長)

「18 10m 主任ジュリー」の出役は出来ない。(藤枝理事)

→承知した。(平井国体委員長)

7 選手強化委員会

7.1 パリオリンピック派遣選手決定

佐橋選手強化委員長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

7.2 2024国際大会・海外派遣選手選考要綱(追加)

佐橋選手強化委員長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

質疑応答

他のスポーツでは、国際大会に出るための基準記録を決めているので、これを大事にすべきである。現在はAという資格基準があるが、ジュニアのためにも基準記録を作って大会に出られるようにすべきである。A基準で派遣しているが、成果が出ないシニア選手が続いている。(大野常務理事)

→国内で基準点としても海外で成果の出ない選手など、メンタルに課題があり、取り組んでいく。(佐橋選手強化委員長)

8 競技運営委員会

8.1 公認審判員

三木選手強化委員長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、訂正を反映した内容にて理事会によって承認された。

訂正

岐阜県と熊本県の()内に数字空白→岐阜県(6)、熊本県(7)

照屋氏の所属を「沖縄」から「沖縄県」とする。

8.2 日本記録公認

栗生記録部会長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

補足説明

300m ライフル三姿勢男子本選について、3x40 から3x20へ種目改変が行われた。種目改変前(3x40)の日本記録を現行記録(3x20)に換算し、改変前の3x40の記録と改変後の3x20の記録を比較した。改変前が改変後よりも高得点の場合、改変後(3x20)の記録は別として国内最高記録とする。逆に、改変後の方が高い場合は、改変後の記録は日本記録とする。今回は、前者にあたるため、国内最高記録とする。

2月理事会にて承認された東アジアユースエアガン大会の AR ミックスジュニア記録(619.7点)は日本記録から取り下げる。それより前に記録が樹立されていたため。

2023年7月の理事会資料で、小数点以下が整数になっていたことと名前の誤表記があったので、修正する。

- 8.3 ~~【削除】~~射場公認
- 8.4 国内適用規定改訂
- 三木選手強化委員長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、訂正の上、理事会によって承認された。
- 訂正
- 「障害」を「障がい」と記述する。
- 8.5 公認審判員規程改正
- 三木選手強化委員長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

- 9 普及・生涯スポーツ委員会
- 9.1 認定コーチについて
- 成山普及・生涯スポーツ委員長が資料をもって説明し、議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

~~9.2 【削除】JSPQ アクティブチャイルドプログラム講師講習会 予算申請について~~

- 10 マーケティング委員会 審議事項なし
- 11 コンプライアンス委員会 審議事項なし
- 12 アスリート委員会 審議事項なし
- 13 愛知名古屋アジア競技大会準備室 審議事項なし

<報告事項>

- 14 会長報告
- 14.1 ニチラ応援ふるさと納税寄付の状況報告
- 松丸会長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。
- 14.2 **【追加】**銃砲史学会による日ラの歴史調査のプロジェクトの報告 資料なし
- 松丸会長より、口頭にて報告があった。質問などはなかった。
- 日ラは今まで学連の創設日を起源としてきた。銃砲史学会へ日ラの起源に関する調査を依頼しており、総会までに結果報告できるように進めている。

- 15 総務委員会
- 15.1 加盟団体規程に基づく2022年度書類提出状況について
- 藤井彌事務局より、資料に基づいて報告があった。
- 提出していない県について、ブロック理事から働きかけるよう、松丸会長より指示があった。
- 15.2 **【追加】**スポーツ振興くじ等の助成金について
- 平専務理事より、資料に基づいて報告があった。
- 補足説明

- 事業運営上の会員登録システムについて、導入となると1000万必要となるため、予算には入れていなかった。しかし、「最新テクノロジーの活用による競技価値の創出」の一部として申請した結果、承認された。今年度内で皆様にご理解頂けるデジタル化を早急にすすめたい。(平専務理事)
- 7月や9月の理事会で示すと考えている。導入時の費用だけでなく、ランニングコストおよび何が低減するのかを見定めて進めたい。(松丸会長)
- 2024年度に696.3万の JOC 強化交付金が交付決定された。これは2023年度とほぼ同じである。(平専務理事)
- スポーツ振興くじ助成申請額について、審査の結果、上限の交付決定額が減額されたので、総事業費を80%に減じて実施する。事業費に対する補助率(4/5)はかわらない。(佐橋常務理事)

- 16 推薦委員会
- 16.1 審査結果
- 大野推薦委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。
- 補足説明
- 空気拳銃の再推薦の基準に達しない人が新規で申請してきている場合がある。新規であれば、新しい銃の推薦書が出てしまう。加盟団体の推薦担当者は注意して承認すること。

- 17 国体委員会
- 17.1 国民スポーツ大会開催内定地の正規視察報告(群馬国スポ:榛東村)
- 平井国体委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。

- 18 選手強化委員会
- 18.1 FTEM 報告
- 佐橋選手強化委員長より、資料に基づいて報告があった。
- 訂正
- 埼玉県も参加している。
- 質疑応答
- F 部門の活動にオリンピックを派遣してほしい。あこがれを生むような活動をしてほしい。過去のタレントハブの概念を引きずらないでほしい。大学生だけを対象とするのではなく、小中学生も対象にしてほしい。(大野常務理事)
- 実施した14事業の内、近畿ブロックが8回を占めている。全国規模の事業なので各ブロックバランスよく実施して欲しい。(松丸会長)
- 承知した。(佐橋選手強化委員長)

- 18.2 2024年4月1日付委員名簿(委員追加)
- 佐橋選手強化委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。

- 18.3 ファイナルリオ派遣発表
- 佐橋選手強化委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。
- 18.4 WC バクー派遣発表

- 佐橋選手強化委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。
- 18.5 WC ミュンヘン派遣発表
- 佐橋選手強化委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。
- 18.6 ファイナルリオ2024結果報告
- 佐橋選手強化委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。
- 18.7 ISSFWC バクー2024結果報告
- 佐橋選手強化委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。
- 18.8 2024パリチケット購入募集
- 佐橋選手強化委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。
- 19 競技運営委員会
- 19.1 電子標的の再公認について
- 三木競技運営委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。
- 19.2 競技運営委員会報告 資料なし
- 三木競技運営委員長より、口頭にて報告があった。質問などはなかった。
- 次世代ビーム銃について、7月の理事会には、具体的な社名を出す予定。
- 19.3 補助対象大会の選定基準について
- 補助対象大会の選定基準について、松丸会長より三木競技運営委員長へ状況確認が行われた。申請のない国スポ、前装銃、学連を除く G1,G2大会を補助対象大会とすることを三木競技運営委員長が回答した。
- 20 普及・生涯スポーツ委員会
- 20.1 2024年度スポーツ射撃体験会 実施状況
- 成山普及・生涯スポーツ委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。
- 20.2 【差替】指導者育成部会報告事項
- 成山普及・生涯スポーツ委員長より、資料に基づいて報告があった。
- 質疑応答
- FTEM で教える認定コーチが固定化している状況がみられるが、さまざまな認定コーチに指導経験を積んでもらいたい。(松丸会長)
- 21 マーケティング委員会 報告事項なし
- 22 コンプライアンス委員会
- 22.1 通報相談窓口の現状報告
- 平コンプライアンス委員長より、口頭にて報告があった。
- 前年度の通報は4件あり、そのうち調査附託案件は2件であった。倫理委員会にて対応している。

- 福井県ライフル射撃協会および前装銃射撃連盟での不適切事実を確認し、指導を行なっている。現在は、指導をした加盟団体の状況を注視している。
- 23 アスリート委員会
- 23.1 【追加】アスリート委員会活動状況について
- 堀水アスリート委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。
- 24 愛知名古屋アジア競技大会準備室
- 24.1 【差替】アジア競技大会準備進捗状況報告
- 藤井彌事務局長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。
- 25 会務報告
- 25.1 愛知県ライフル射撃協会 議員会長の旭日双光章の受賞
- 藤井彌事務局長が口頭にて表題の内容を報告した。質問などはなかった。
- 25.2 大阪府ライフル射撃協会 山口会長(76)ご逝去
- 藤井彌事務局長が口頭にて表題の内容を説明した。
- 25.3 ENEOS 協賛広報映像の紹介 資料なし
- 平専務理事が口頭にて表題の内容を報告し、映像の一部を紹介した。質問などはなかった。
- 以上各業務執行理事より職務執行の状況報告があった。
- 17時に議長が閉会を宣言した。
- 上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した代表理事および監事が記名押印する。

2024年5月25日

議事録署名人

公益社団法人日本ライフル射撃協会

議長・代表理事

松丸喜一郎

松丸喜一郎



代表理事

田村恒彦

田村恒彦



代表理事

横山幸子

横山幸子



監事

岸高 清

岸高 清



監事

永谷喜一郎

永谷喜一郎

